WASON
HQ
1104
J74+
Sept. 8
1888
no. 126

一冊五錢　　版權所有

當府内無郵税　　各土曜日出版

明治廿一年　(第百貳拾六號)　九月八日發

社説
理想の紳士(第二)

論説
クリスチアン、ホーム(内村鑑三)

批評
夏木立○男と女の違ひ○和歌の略史○雜評

叢話
ミス、ウイラルド及び人形○婦人病の元因(其三)(長谷川泰)○バイロン美人を評す○婦人の看病○女學校の卒業生

小説
哲女の巻○さすがに双紙○

佳傳
米國獨立革命の婦人

寄書
不忍聞不忍見(石橋忍月)○覩ザル有感(井上直子)

新報

The Woman's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 126. SEPTEMBER 8TH, 1888.

EDITORIAL:— The Ideal Gentleman (No II), Pseudo Gentleman.

LEADING ARTICLES:— Christian-Home : (No II), by Mr. K. Uchimura.

CRITICAL NOTES:—"Sammer Grove." "Difference between man and Woman." "History of Japanese Poetry." Miscellaneous Works.

MISCELLANIES:— Miss Willard and Dolls. Causes of Female Diseases, by Mr. T. Hasegawa. Beauty and Behaviour. Woman as a Nurse. Gradiates from Girle's Schools.

NOVELS:— "Tetsujo no Maki;" "Sasugani" (X).

BIOGRAPHIES:— Womans of American Revolutionary Age.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

婦人會員の會讀又内の編輯に嘱せり

誠に最良の教科書

通信女學 第拾貳卷 發兌

去十五日出版せり

定價廿錢全國兼郵税 一部枚數七十頁

●珊瑚の珠 （第七十七回）

女子の誡に　　山田邦彦

櫻の匂ひ桃のこひ花のすがたも何かせむ柳のしなひ梅のふり松のみさをゝ守れかし。

學に志し藝に志す者の訓

むかし李白書を匡山によむ漸く倦て他行せしとき道にて老人の石にあてゝ斧をするにあふ是をとへば針となすべきとてすりしと云けるに感して勉めて書をよみ終に其の名をなせりと云ふ學藝に志す者は須らく黽勉すへし。

我か身をつめつて人の痛さを知れ

曹子建が詩に曰く十指有二長短一痛惜皆相似と實にや小指は母指より細く中指より短かしと雖も其の病を受くるに臨みては痛み皆異らず人に貴賤貧富の別はあれども決して憂苦哀樂の違ひあるべからず。

心を盜むの賊

三浦晉安曰く人の志のあるところを考へ其の喜ぶべき事をあし忌むところをさけ父子の親しき情をさかせ兄弟の恨を起し夫婦恩愛の中をやぶり朋友の交りを失はしめその悪至らざる所なき自ら人の腹心と思はるゝが如き是れ心を盜む賊なり。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百廿六號　明治二十一年九月八日發兌

社説

○理想の紳士

（第二）、今時の出來紳士。　ゆかり記

演舌も近來は餘程西洋風と成り、辨士が先づ冒頭に發言せらるゝは、「貴婦人及び紳士諸君」と申す一句にて侍り、又た英米外國のお方の所ろに參れば、妾等を指して此のレデーと仰せあり、殿方を指しては、惣べて此のゼントルメンと仰せあるようなり。然るに、斯る際に申さるゝレデー貴婦人、ゼントルメン紳士と云ふは、何も優雅貞淑の女を指して呼ばるゝにもあらねば、又必らずしも剛毅温厚の男を指して呼ばるゝにもあらず、妾等が貴婦人と稱へらるゝの代りには、亦た有がたからぬ殿方も紳士と尊稱さるゝとなり。夫故之は少しも當てに成らぬとと斷念らめ候て、扨て今時の紳士、即はち明治新日本のゼントルメンと持囃さるゝ御方は、抑も如何ようの御氣質御身持かと、恐る〳〵見奉まつらばやと存じ、

先づ其紳士の立現われ玉ふ境界を區別し、假りに政治社會に於ける紳士、事業社會に於ける紳士　及び學者社會に於ける紳士、と箇樣に三種に相分ちて細かに其の御有樣を見てあれば」。第一、政治社會に於ける紳士には、無論官と民との大差別ありて、双方丸るで面躰を異に爲玉ふ、其の民間に在る者は、田舍に於ては田舍紳士と稱し、三府繁華の土地に於ては、大方代言人新聞記者と定まつたり。官に在つては、クヤ〳〵ワイドモの御種族より、ピンタ打ち切る恐ろしき御方もあるべしと雖ども、素と是れ天下の英才雲霞の如く集り召されたるとなれば、之を惣稱して官員樣とこそ云ふべけれ、中々以て之を種類分に致すなど、思ひも寄らずと斷念すべき義に侍る。扨て此の官民政治社會の紳士方は、抑も何如なる經歷によりて今日の位地を獲られたるかと伺ひ申すに、先づ先祖持傳への田畠少なからず、昔し庄屋名主を相勤めたる拔群の經驗もあればとて、今日有がたくも戸長世話掛を拜命いたし、素町人百性に旦那と仰がれ、新聞紙の社説位ひは玉篇によつて分り、治罪法刑法徴兵令位ひは、注釋によつて差支へなく相分かるを以て、則はち如此くエラク成られたるものもあるべく。又た免許代言人某の書生として忠勤怠りなく、治安裁判所の勸解に名代と爲つて一と度感心の功あり、某法律學校の講義録を借覽して、免許試驗に古今無類の僥倖ありな

ど申して、則はち遂に如此くエラク成られたるものもあるべく。又た、變則讀みの修業數年怠りなく、イットのザットの筋道も略ぼ相分かり、ミル、スペンサー、ベンザムはぐつと一と口丈け飲込み、之にダーヰン、とミルトン、とシエクスピアと源氏物語と八犬傳とを生かじりに相かじり、沈思苦吟一ケ月の草稿漸やく東京何々新聞の寄書欄内に埋められ、之れより先づ雜報集め位は出來やうと云つて抱へられたるが、廣ろく他の新聞新誌を讀むのお蔭に、材料キリヌキ堆の如く積もり、追々と文章が角立ちて、御身も段々と出世し、則ち遂よ此如くエラク成られたるものもあるべく。又た、維新の初め、無事を嫌らふ少年の客氣意外に甘く當たり、王政復古して舊幕瓦解し、昨日の書生頓はかに天下の樞機を握つて「斯う遣れへ、ヨカ〳〵」の政策朝暮に御布令となり、民選議院の獻策幸わいにして行われず、所々の內亂も辛うじて治まり、民間の志士大ひに貧乏したれば、其の權力威勢いよ〳〵以て上進し、今日其の御胸中には五大洲を洞察して、日本百年後の大策を打立て玉ふなんど、わつぱれ目出度政治家とお成遊ばし、則ち遂に如此くエラク成られたるものもあるべし」。何れも皆な、立派なる御經歴とこそ、承はり侍べれ。

（二）

第二、事業社會に於ける紳士には、勿論官民の差別は御座なきやうなれども、府下の事業紳士、田舍の事業紳士との大差別あり、双方大層に違ふ樣に覺へ侍べる」。先づ田舍に於ては、有志家とか申し、則ち當地方の事業擴張に盡力一と方ならずと評判すれども、扨て其の御計畫が實施せられたる事は餘まり傳聞せず、よし實施せられたりとも、其御計畫が圖に當つて餘程金がモウカルとも承はり申さず。而も其邊の財産家は之と附合ふ事を嫌らひ、財産ならして一ともうけに粟を握らうとの面々之に至極贊成し、何々會社何々事務所と云へるが突然として出來上り、開業式には赤き提灯が下がり、社員の奔走には黒塗の車が出る迄でにて、扨て其外に閒として聞こえず。彼是する內、會社會所の門前雀羅を張つて、有志家先生知らぬ間に遠足されたりと聞ゆるもあり。若し又一二年火の車が廻轉して、株金年々に減ずる代りに利子配當割に多く、辛くも其間は持堪へたるが、落行く先は、矢張窮愁、遂に滯うりなく最期を遂るもありと聞きぬ。田舍の有志家則ち中央集權を苦に病み、一つ地方に旗を擧んとせられたる高尚なる此の事業紳士も、英雄の末期どうり最と愍むべき者と思はれ侍る」。然るに、東京大坂邊に住居せらる丶事業紳士、即はち普通

に敬して紳商と申す御方々は、其の事業一つとしてモウカラざるはなく、モウカラざるものとても鳥の終末同樣、遂ぞ其の最期を現わしたるとなし。之は堂々たるお上みの逸れ人と親密に交際せらるゝほどに、其の智力識見非凡にましまし、一と度び見込を立てたるものに損は無いとの故に因る乎。左りとては實に浦山しき御運、中々凡人の企だて及ぶべきものに侍らず、田舍の有志家に比して幾等の御手練ぞ、さても扨ても立派なる紳士やと、人々は言ひ囃し候なり。

第三、學者社會に於ける紳士とは、上は日本帝國の博士學士より、米國英國獨逸國の何々博士學士は固より、たとひ何等の稱號なき無官の方樣と云へども、其代りには、何の舍主人何々散士、とか申す、人も知つたる(若くは人も知らぬ)稱號を所持せらるゝを申すと也」。此方々は何れもレツキとしたる御經歴あり、先づ書生氣質に實傳を遺して、恙がなく帝國大學を卒業せられたるもあれば。當途なしの洋行も先方にて特の外甘まく嵌まり、若干金のお禮の印しとして、難なく博士學士の位ひを與へられたるもあれば。又た、佳人才子の小說切りに再版三版(新聞紙廣告上にて)と流行し、夫でも厭き足らず、表紙を換へて迄で世に出版せられて、先づ以て正味若干部は書肆の手を離れ、其お蔭によつて、何々主人、何々散士の名も仕方なく山を出でたり、と箇樣に人の惡口申す小說家もあるべし」。然るに、此の學者紳士の自任の深きは、天水桶の水よりも深く、其の自信の厚きは、安新聞紙の紙よりも厚く、其の守るとの確かなるは、秋の空よりも確かなり。左れど、其の說を吐き玉ふとの高きは磐梯山の噴火も尙及ばず、其の大家先哲の論を非難せらるゝの巧みなるは團々珍聞と云へとも三舍を避くべし。如此き學者を東洋東端の孤島に出現せしめたるは、實以て感謝すべきヿなりと、隨分に有難がらるゝ、ものも侍べる。

箇樣に區別してそれ〴〵に、今時の紳士を窺がひ見れば、妾等には何分感服いたしがたき節の候。今の紳士とは、必らずしも、道德の高き者を申さず、必らずしも學問の深き者を申さず、必らずしも識見非凡節操堅固なるものを申さず。其の心中の覺悟は何如がであれ、其の自ら養ひし所ろは如何であれ、先づ春の舍主人が此頃ろ御傳授ありたる如く、自然淘汰を懸念して專ぱら毛色を飾り、只だ甘まく胡麻化して、早製造にこしらへ上るが上策と知られたり」。而して其立身の方法には、必らずしも、着實を要せず、必らずしも順序を要せず、又必

らずしも守る所ろ進む所ろ退く所ろの標準を要せず、其實力は何如であれ、其の財産は何如であれ、又其自身の覺悟は何如であれ、先づ時事新報記者が先年御講釋ありたる如く、水は低きに就き割れ目に入り曲り包み附着するの道理に隨つて、專ぱら利巧に立廻り、先づ兎も角もして、早く出世し、出世したらば又其處ろにて同策を運らし、上へ上へと攀ぢ登つて、只管ら巧みに身を据ゆるに在りと、存ぜられ侍る。

さても〳〵、今時の紳士とは此の樣あるものに候か。妾等の考へには、紳士とは、何も名の聞へたる、金の多き、位の備わつたるものにのみ限り申さじ。たとひ、志士壯士と云はれて人に餘まり用ひられぬ政治家なりとも、又は、獨立獨行して、九尺二間の小さき店を出し、曲げず阿らずして正直に營業をさるゝ商人なりとも、又は、今ま世にも聞へず、學士の稱號もなく、未だ何たる著作もあらざる學者なりとも、其中に眞の立派なる紳士が候うべし。今時にもてはやす出來紳士は、實に妾等が好まざる所に侍べる。其上、此の紳士方は、些かも優しき士らひ氣とてはなく、夫として其妻を見ると實に殘酷にて、父として其の子を見ると眞とに冷淡なり。よし女を弱きものと爲さるゝとも、若し弱きならば之を助けて、優に深切に持成さるゝが所謂る紳士には候はずや。又た父として子供を愛するは、決して恥かしきとよあらず、ナポレヲンやルーテルが其兒に於ける抑も何如計りの深切に候ひしぞ。然るに、女に優しくし、子供に愛を示せば、最早や紳士の男らしさを失ひしと思ひ、特更らに殘酷、特更らに冷淡に爲さるゝの風、實に〳〵愛相が盡き果て候。

左れば、今時のかゝる出來紳士がもしも眞とのゼントルメンならは、雪中梅の川岸萍水、金尾惟取、浮雲の本多昇、京童の中津國彦、夏木立の那須意外等をこそ、政治社會の紳士、事業社會の紳士、學者社會の紳士、即はち明治新日本の正銘なる紳士とこそ申すべけれ。然れど妾等には、何如にすとも左樣に思はれ侍らず、女性なれば、ミス、ミウロックと同意見にて、寧ろ「ジヨン、ハリフハックス、紳士」ありとこそ斷言いたし申さうずるにて候。

學者は常に輕氣球に乘じて下天を臨視するの覺悟あるを要す、世の治亂、家の興敗、業の難易、人の善惡、一切吾が研窮の項目にあらざるはなし。但だ之を見る當さに上天より臨視するの思あるべし 敢て地上に降りて之に直接するの感を懐く勿れ(女學子)。鎌倉權五郎景政は目に射られたる矢を拔かずして擊を覓め、新田三郎義興は兜の緖を結び了つてのち敵を切る。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

論説

○クリスチヤン、ホーム(其二)

(米國理學士) 内村鑑三述　佃與次郎筆記

第五に好きホームは決して家に不潔な言葉を使ひません、弟は兄を呼捨てせず姉が弟や妹を呼ぶにも皆奇麗の言葉を用ゐ其間に不潔な下等な口を利くとは御座いません、且つ又好きホームに往けば長者を尊敬する事である、私共實に是れには感心致したで御座います、基蘇教の學校で教育を受けた男女は皆世の中の人が申すに基蘇教に入ると敬ふと云ふ心が薄くなると申ふしますが私共も誠に殘念に思ふのです却て基蘇教は敬う心を失はせるものかと疑ふた事すらもありますが純粹のホームに往けば、實にソレは驚くべきでありますゝ。

箇樣にホームの實際を分析してお話しましたが、其ホームの見本には一番彼のメソヂストのジョンウエスレーのホーム程好きものは無いと思ひます、御承知の通りジョンウエスレーの説きたるとは總てジョンウエスレーの母の説と申すとですが、爰にジョンウエスレーの少き時に其母の教育しましたる本の一段が有りますから之を聊か諸君にお話し申ふします。(是れは此頃出たジョン、テイルフオードのジョンウエスレーの傳なり)

其の教育の仕方は、小供が生れるや否や、直に始まつたと申すとで赤子に着物を着せる時と脱がせる時をチヤンと定めた、三ヶ月の後には又小供の寢る時を定めて午前に三時間午後に三時間然して時間が來れば直ぐ起すと云ふ樣にしたモ少し大きくなれば時間を減じて三時間を二時間とし午前にも午後にも二時間宛としました、其叱る時には父や母の譴責は恐るべきものであると云ふとを一歳とならぬうちから敎へたと云ふ事です、次には食堂に出る事が出きる樣になれば小供に相應したる腰掛を造りて一家のものと一所に必ず食すると云ふ樣にした、物が欲しくも慳貪に言ふた時は與へなひ、必ず「何うぞ下さいませ」と云ふて何も彼も取らせる樣よした、又三度の食事の外は何んにも食はせません、夕刻は早や六時には仕舞ひ小供は夕飯を畢り七時には床に入れます、一番末の子から段々順序を追ふて八時に至れば小供は皆寢るとしました。

ウエスレーの母は小供に神を敬ひ宗旨を信ずるの心を仕付けることを大事といたした且つ申しますに私は此小供の意地に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

打勝つことを大切と思ふ何となれば意地が強ければ後來に至りて潔白の士となることは出きない然らされば小供の量見の出きない間は父母の量見を以て支配することができない又自分の量見の出て來た時は天の父母に身を捧げる事も出まい、と斯う云ふ精神で小供を育てたから縱令病氣でも何の樣な苦き藥でも皆我慢して飲んだと申します、宗教上の敎は出きるたけ早くした又話しをすることが出きぬ前から小供は皆一家の祈禱會に靜かにして居なければ成ぬ習慣を作らせた、少し言葉を話しすることが出きる樣になれば聖書を學ばせた一家の中で不潔の言葉や惡しきことを話すことは迚も出きない又泣て物を貰うことは出きなかつたと云ふ。

一家の中で約束を破ることは出きない、若し兄が弟に物を與へるか與ふるの約束があれば最早之を取返すことは出きない、ウエスレーの母自らが敎育を始めるは五歳になッてからである、然うして此小供が始めて敎育を受る時には一家中を飾ッて一の儀式を爲してABCを敎へた、ソレ故に其子はタッタ一人の娘を除いては皆始めの日に二十六字を學んだ、又何の樣な課業でも十分覺ゆる迄は外の物を敎へない、又小供が母の學校に在る間は高い聲を發することが出きなかつた、是れは見本となるべき所の人の妻人の母であらうと思ひます。

今迄はホームの利とホームの分析見本とをお話したのだが、然らば如何にしてホームを作るかホームが出きるかと云ふの事を少しく考て見たいと思ひます、如何にしたらば出きるか、或人は申します、先づ家の造り方が惡るいと、成る程是れも其の一部分です今日迄の日本の家の構造部屋の間取りなどではハキ／＼事をすることも出きず或は面倒なることもありませう、又或人はホームには此の如き母が小供を敎育すると共に家の事を指揮するには下婢も使はなければならぬ下男も置かなければならぬ故に適當したる富が無ければならぬと、成る程是れも一部分かは知らない、併しながら、只今も申す通りホームは必ずしも金に據て出きるものでは無い、今私が百萬弗以上の收入ある家を見ても其家はホームでは無い、殆んど地獄の樣なものを見た其家には幾多の家具資財が有ッても一向にホームでないものを見ました、極く儉約をして居る人の家に下婢も下男も使はないが其中に立派なるホームの見本を見ました、然らばホームは何に由て成るやと申しますに、ホームを作るには一に母の精神即ち心の持ち樣によりますと思ひます此精神とは基督敎の精神だと思ひます。(未完)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

批評

○夏木立　（中本一冊百三十四頁定價三十錢　發兌所　東京本町三丁目　金港堂）

此書は、美妙齋主人山田武太郎氏が、「夏木立といふ中には旃檀もあり、また荆棘もあらうといふので」、籠の俘囚、玉屋の廛、花の茨茨の花、柿山伏、仇を恩、武藏野、の六篇を集め、之を夏木立と總稱せられたる、近來珍らしき好著作也。此頃の小說にて、妹と脊鏡、浮雲、捨小舟の類、何れも一卷當千の價あるものなれども、此の夏木立の如く、著者の才力の滿編なく行渡りたるは、比類なきもの也。其の譯述の巧妙なる、其の想像力の豐富なる、其の養ふ所ろの深き、僅々たる此の一小冊子によりて十分に承知せらる。此書に敬服するもの世間必らず多かるべし。故に吾人が賞評は之にて止め、今ま著者に向つて一二の言を寄せ、其の千慮の一顧に供えられんとを請ふべし、

隨分多く西洋小說を讀まれたると見へ、形容の詞ば驚ろくべく行渡れり。然し、吾人は之を唱讀する間だに、左程に美妙の觀念を起さず、寧ろ時々に散在する最と下卑たる辭句によつて、ハット思ふとあり。又最う無くもがなと思ふ下より、更らに意外の形容詞が現はれ來つて、忽焉美妙の觀念を奪ひ行とあり。特に其の風景樣姿等を寫さるゝ躰、喩へば薔薇の花瓣を一枚〳〵に剝ぎ、草上の玉露を振るひ落して、眺らるゝが如し、即はち解剖的の形容多くして、稱合大觀の形容なし。此等は何れも美妙と云へることに宜しからぬ者と存ず。

言文一致は結搆の事なり。然し言文一致の目的は成べく言文を一致するに存し、今の文章を今日の言葉に迄て持行くと云ふにハあらじ、換言すれば、此の文章を更らに言葉に近づかしむる通りに、亦た此の言葉を更に文章に近づかしむるに在りと覺悟す。故に「一室の裡で會話をして居るのは二人の貴人だ」。などと、仰せられず、矢張り相應の文辭と耳に聞えて分かる程の優美なる語法に止め、今の言語を之に似せしむるよう盡力するが大切ならん。名家の文章洛陽に出でゝ、市中の言語大に變化したるとは、西洋支那に實例多きとなり。

以上二つ、著者の文才に敬服するの餘り、特に重きを呈して其完全を望むものなり。美妙齋の如きにして、若し餘り今時の雜誌屋さんに倣ハず、更よいよ〳〵養つて大ひに期する所ろあらば、新日本言文一致躰の進歩すると莫大ならん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○近時の女學論

（一）。男と女との違ひ

羅馬字新誌第二十三號には、男と女との違ひと題する論説一篇を載せたり。其の大意に云く、

之より別品は天下國家の危うきことに關係なきを述べん。抑も野蠻世界には、戰爭の爲め一の族皆な亡びると通例也。然るに一種族が他の種族を亡ぼすとき、多くハ男を殺し、キタなき女を賣り、獨り美しき女を連れ歸りし也、此例支那日本西洋に最と多し。源平の爭ひの時、淸盛は源家の一族を打絶さんとしたるが、單だ常盤御前は之を愛して妾と爲したるゆへ、其の一族は遂に助かりたり。維新の際、薩長士の三强藩は、徳川幕府を打倒して、其家來とか民とか云へるを退けたれば、斯る類にして今の世に時めくは尤も少なきに拘らず、舊幕士の美女美人にして、現に雲の上に登られたるは甚はだ多し」。因て今ま先づ支那の歷史より此類の實例を擧んとするに、左傳は人も餘り能く承知するとゆへ、專ぱら、晋隋の世の事を擧げん。

第一、敵の妻や娘を連れ歸りたる事

西晋の武帝（司馬懿の孫）は吳を平らげ其后ち、大に遊び事酒盛などを仕事とし、御殿女中の數殆んど一万人ほどになり。格別に、吳の女五千人を選びて、御殿女中とせられたり。

東晋孝武帝の時、宋王の誕と云ふもの、其城によつて謀反を起せしに、城遂に落たり。官軍敕ありて、城の中の人民士らひ子供年寄の差別なく、皆な悉とく殺ろし盡せり。そこで、沈散士と云へる人が、身の丈け五尺に至らぬ者は生かし置き、其外の男は殺ろして仕舞ひ、女ハ戰さの手柄の褒美に仕度と願ひたりとぞ。

梁の高祖武帝が齊の寶巻を亡ぼしゝとき、御殿女中三千人を大將や士卒に分ち與へたりとぞ。

第二、敵の女を立てゝ妃にする事

西晋の愍帝の時、漢の劉曜が長安を攻落し、西晋を亡ぼしゝが、帝の后羊氏を取て、姫とせり。羊氏は大に劉曜の寵愛を受け、遂に后となり、餘程政事に關かりたりと云ふ。

西燕の君永と云へる者が、晋を亡ぼし其君丕を殺せり、而て其后羊氏を妻君にしようとしたらば、羊氏は劒にて永を刺し殺さんとし、永の爲に殺されたり。

后晋の姚萇大ひに晋の君登を打やぶり、其后毛氏を執らへ

自身の妻とせんとしたり。毛氏はきかずして殺されたり。之れ未完の論なれども、余程面白氣なるが故に、今たゞ其前部を茲に轉載す、其全篇を掲げ了らるゝ日、則ち一言の評を呈さんと欲す。

（二）和歌の略史

報知新聞八月二十三日より二十八日に到る、連日の紙上には池袋清風君著和歌の略史を載す。大意、萬葉古今の歌、眞率にして、味無限なることを、以後歌風漸次に虛飾に流れ、新古今に至て、大に墮落したることを論じ、かつ古より、今日に至る五百年間、歌流に開進系と、舊弊統の二つあることを叙し、專ら和歌に、眞實虛飾なきことを、主とする趣を述べらる、是れ蓋し、爭ふべからざるの、論理にして、苟も詩歌の性質を知るものは、何人と雖も、多少是れを賛成せざるものなかるべし。然るに、眞實とは如何なるものにして、虛飾なきとは、何程の點に至る迄を云ふや、是尤も研究すべきの件なり、例せば氏が、頭ごなしに惡口せらるゝ

一葉ちる柳の糸の絶間より影さへ細きわきの三日月

秋よりも憐れを見よと散る花の後の木梢に霞む月影

此二句の如きは、何故さほどに、惡しきものか、吾人はトンと是れを了解せず。兼て惠送せられたる、淺瀨の波を、精讀したる上にて、他日更に敎を請ふとあるべし、但此客史を通讀して、大に得る處ありたるを以て、今先ず是を拜謝すと云ふ。

雜評

一〇 國家敎育策（一册）　日下部三之助述　東京敎育社發行

世界の大勢を論じ、日本過去の歷史を叙し、現今敎育之法策は、武事一偏にあることを議し、是に依て、惰弱卑屈なる民心を矯正せんとせらる、當今の時弊に、的中するの議論として賛成の外なし、然して其武事敎育の何物たるかを問へば、唱歌、歷史、傳記、躰操、輪讀會に依て、書生の精神を鼓舞するにあり、吾人は是れにも亦賛成なり。然しこれ丈けで、書生の精神が、全く引立ち得なば、矢張り維新前の壯士が、慷慨悲憤して、洋夷を退け得たる筈なり、日下部君以て如何となす、但し今時に當て如此熱心なる論文を見るは、實に喜ぶ可きことなり（五十錢）。

二〇 應用統計學（一册）　吳文聰口授　東京富山房發行

無味乾燥の統計を、甘く實際に應用し、人に面白がらせて、陰に此學を、擴張する著者の熱心、感佩するに堪へたり、全

巻六篇、最も有益なる材料に、充満するうちより、試に左の一段を拔萃し、讀者に全躰を、推知せしむ。

各國現在人員男女比較

國名	調査年月	男	女	合計	男百人に付女
日本	一八八六年一月一日	一九、三〇〇、二六一	一八、八五〇、九五六	三八、一五一、二一七	九七、六七
大貌利典	一八八一年四月四日	一七、二五三、九四七	一七、九九二、六一五	三五、二四六、五六二	一〇四、二八
佛蘭西	一八八一年十二月十八日	一八、六五六、五一八	一八、七四八、七七二	三七、四〇五、二九〇	一〇〇、四九
獨逸帝國	一八八〇年十二月一日	二二、一八五、四三三	二三、〇四八、六二八	四五、二三四、〇六一	一〇三、八九
伊太利	一八八四年月日不詳	一四、二六五、三八三	一四、一九四、二四五	二九、三六一、〇三三	九九、五〇
墺地利（匈牙利）	一八八〇年十二月卅一日	一八、五二二、五四七	一九、二六三、六九九	三七、七八六、二四六	一〇四、〇〇
白耳義	一八八〇年十二月卅一日	二、七五八、四一三	二、七六一、四三一	五、五一九、八四四	一〇〇、一一
和蘭	一八七九年十二月卅一日	一、九八三、一六四	二、〇二九、五二九	四、〇一二、六九三	一〇二、三四
那威	一八七五年十二月卅一日	八七六、七六二	九三〇、一三八	一、八〇六、九〇〇	一〇六、〇九
瑞典	一八八四年十二月卅一日	一、二五二、二三三	二、三九〇、八九五	四、六四三、一二八	一〇六、一六
瑞西	一八八〇年十二月一日	一、三四九、六二六	一、四五一、四七八	二、八四六、一〇二	一〇四、〇八
丁抹	一八八〇年二月一日	九六二、八三八	一、〇一七、四二七	一、九八〇、二六五	一〇五、六七
西班牙	一八七七年十二月卅一日	八、一三四、三三一	八、五〇〇、〇一四	一六、六三四、三四五	一〇四、五〇

小供が冬の朝床より起き出でゝ「おつかさん大變な雨ですから學校へ行のくはイヤデス、毋は笑て「今朝は大變よいお天氣デコノ通り日があたつて居マスものなんで雨がふるものかね「デモ大層雨だれが落ちて居デはありませんか「アレは夕の雪が朝日デ解るのデス。

叢話

○ミスウィルラルド及び人形

此頃ろ米國の新聞紙上に於て、馬鹿々々しくも面白き一箇の討論ぞ起りける。即はち、或る禁酒反對の新聞紙が申すには、米國婦人禁酒會の會頭ミス、フランセス、ウィルラルドは、女の子に人形を持たすとを不可とし、自然之を男らしくして、追ては一家の和樂幸福をも減ぜんとの志しありと、論駁したるとなり。然るに、ボストン婦女雜誌の記者は之に答へ、ウィルラルド孃の爲に辨じて曰く、孃は決して子供の樂しみを奪ひ去らんとする人にあらず、況んや亦分もなく人形の敵と爲る御方には非ず。孃が畢生の事業は家族の和樂を圓滿にするにあり、酒を禁じ煙草を禁じて彼の「淸潔平和の城廓」たる一家内を幸福にせんとするに在り。左れば何故に左樣の不深切なる事を爲さるべきぞ。必竟は人形と云るものを頭から、退ぞけらるゝにあらず、但だ當今流行する佛蘭西輸入の人形の如きは、女兒に着物や外形の事を慕はするの弊あらんとて申さるゝ義あり、故に古し風の質素淡泊ある人形ヌ對しては、孃は決して之を不可と爲さるまじ。然し孃は亦謂へらく、迚も女の子にのみ人形を弄あそばするは宜しからず、矢張り男の子にも之を用ひしむべし、人形によりて母たるの性質を發達せしむと云はゞ、又之によりて父たるの性質を發達せしむるを要す、今の如く女の兒にのみ之を弄ばさするは即はち女兒をして只だ家の内にのみ遊ばしめ、外氣快濶の所ろに運動せしめざるの由緣とは爲る、と申さる。蓋し孃を指して子供

を愛せざるの人と云ふは實に思はざると也、孃は基督教々會を通し、之より出る慈善の事業を通して、其母たるの優しき思ひを、人類と云へる世上一汎の子供に對して現はさるゝ者なり云々」。色々の議論も出で候もの哉。

○婦人病の元因(其三)

長谷川泰

大日本婦人衛生會月次演說會場演說　佃與二郎筆記

總て病は遺傳するもので假令ば肺勞とか結核とか申す疾は、「バッチルレン」と云ふて一ッの小さな虫が肺病の患者の手拭或は衣類などから傳染して肺勞になります、又「コレラ」とか熱病とか云ふ疾がある、成程「コレラ」は一度に一萬以上も殺すが每年有るものではない、肺勞などは殊に十五歲から三十歲迄强健なる者を斃すので在のみならず、子孫に遺傳致します、肺炎肺勞など云ふものは弱い人に付くので肺の力が丈夫で營養が十分なる者なれば、其病を免るゝので有り升、私の見聞する所では、まだ結婚なさらぬ人は肺勞に罹る比例が少ない、殊に多いのは廿四五歲から三十四五歲迄の御婦人に多い、尤も多いのは何云ふ塲合かと云ふのに初め壹人の子供が御無難に御母子共育ッて、二人めから三人めのお子樣が出きれば、遂に一年乃至一年半も經てば肺病になる事が多い樣に思ひました、斯の如くなるのは、遺傳の素質も有りますが、全躰肺の弱い人に一遍取り付けば助かる事の出きぬ尤も恐る可ものであるが、二人か三人めの子供が出きて一年か一年半も立ッて、何うも前の時から見れば何んだか身體の工合が十分でないと云ふから始まるのが、割合に多い樣に思ひます、是は私壹人の考へではない、既に醫科大學の人などにも此の事を度々話した事もありますが、成程或は然う云ふ樣に思はれると云はれた事もありましたが、身體の衰弱は實に可畏ものて、身躰が壯健なれば抗抵力が强から大抵の病氣は撥つける事が出きるが、身體の弱い人なれば肺勞の如き病毒弱身に付込まして命を取と云ふ譯であり升から、實に是等の事を考へれば、平素から適當の運動をして御丈夫になさらなければならぬと思ます、只今申のは傳染病の事だが、其外の病「則ち子宮などの事を貴婦人淑女の前で申のは甚だ不調法の事とは思ひますが今日私が婦人病原の事をお話するに就ては餘義なく子宮と申事も折々述るか知れませんがッレは偏へにお免るしを願い升」殊に男子に無い子宮病などは、運動の不充分から起る次第でありますから、何も虛弱の人が只弱い／＼と云ふて居らるゝ丈けでは困る、實に容易ならざる關係を持て居

るものと思ひ升、今の風潮は只に身體の美麗を競ふて、東京府外の人は又府下の人の美麗を學ぶと云ふの有樣で御座いますから、此風潮に反對して相當の運動をなし、貴婦人淑女が疾病の原因を除くと云ふ樣にあれば、各府縣に於ても皆身體の運動をなし、病原を除くと云ふ樣になりませうから、東京府下の貴婦人淑女が運動なさるゝ事は、我日本全國に關係有る事と思ひ升。

扨斯の如き、淑女諸君の身體の衰弱を、來たす中にも、殊に尤害の有るのは、危險なる教育の方法であります、近來は段々文明になりまして、申迄もなく男子の學ぶ學科は何學問でも御勉強なさる事になつて從て政府に於てもソレ〳〵女子師範學校高等女學校とか種々の學校が出きて各府縣に於ても大抵女學校の一ッ位は有ります、是等の學校に於ては、如何なる、有樣でありませう、私の見る所では公私の別なく身體の運動などの事に就ては更に頓着無い樣に思ひます、私の考へる所では追々當局者に於てもスッカリ面目を變じて男子の學校に於て兵式躰操をするとか凡て身體の運動の事に就ては一變しましたが何うも御婦人方の御勉強なる學校では兵式躰操をなされとは御勸め申しませんが適當の躰育法をなして婦人の身體を强健にする事は眞に必要の事と思ひ升、凡婦人の病氣は身體の衰弱が誘引となつて之を導くので有りますから願くは我大日本婦人衛生會の貴婦人淑女は右等の點を殊に注意して躰育法の事を御務めなさる事を望みます、是私が特に第一に運動空氣の二ッの物に就て鄙見を申す次第で有り升。

第二は神經系の發育過度と云ふ事です、是は初め申す如く我々の肉體は筋と云ふて皮の下に有る肉が働いて歩行いたします、其他の運動も悉く筋の働きであります、其肉の中に血の通ふ血管と云ふ物が有ります、其血管の中に血が通ふて我々が食事して肉が養の分を取て生活を營むものであります、其外神經と云ふものが有ります、凡そ聽くとか臭ぐとか視るとか寒熱痛痒を知るとか皆是れ神經の働きです、斯く我々の肉躰の中には神經と云ふ一種の物が有ッて大層の關係をなします、シテ身躰を健全無事に保つには神經の發育と筋の發育と平均して往かなければならぬ、若しも一方の神經の發育が過ぎて天秤が狂ッては駄目です、恰好釣合を得る樣に神經も筋も共に發育するのが健康ある身躰で有ります、此平均は尤緊要なるものでありまして、能く衛生會の演説などに申ますが、健康なる身躰に健康なる精神有りとか、又同じ事だが軀幹健

康にして精神初めて健康なりなど〻云ひます、即ち丈夫な身體に丈夫な精神有りと云ふ譯です、然うで有りませう、今勇猛なる武將が有ッても若しも病氣で身體が弱いから百萬の兵を指揮する事は出きない、又內閣總理大臣にしても肺勞を病むとか、又多病で有るなれば萬機を司どる事は出きますまい、又商業に從事する人でも、年中病氣で有るなれば中々懸引する事は出きません、養蠶家が蠶を養ふにしても其通り、總て人間が生活して銘々の本分を盡すには身體が丈夫でなければ出きない譯であります、弱い身躰には必ず弱い精神がある、才子多病とか云ふて病身でも詩作が上手とか、畫を能く書くとか云ふが是は昔しの事で迚も今日多事の世の中に立つには才子多病では追付ません、是は私が申さずとも御來會の諸君に於ては百も御承知の事で有ります。

あたし野の露消る時なく鳥部山の烟立ちさらでのみ住み果る習ひならばいかに物の哀もなからむ世は定めなきこそいみじけれ

○バイロン、美人を評す

英國の情詩人バイロン云く、美人が人の戀愛を蒙るは、必らずしも其顏ばせに非ず、顏ばせの極美なるが必らずしも最上の戀愛を受るには非ず。余は曾て、アザのある一婦人を愛して殆んど狂せんとしたり、然るに其後忽焉として此の愛情の消滅したるは、彼が面白からぬ御面躰を篤と拜見したるゆえにはあらず、或る時彼が椅子の上に突立上り、丈伸びして群集の人々を窺ひ居りたる、其樣姿の何如にも女らしからぬを見たるが故なり。余は此時より本氣に立反つて、戀情を棄てたり、戀愛の必らずしも御面躰に關せざるを知るべし。

○婦人の看病

女學子述
しず子錄

古語に、才子多病と云ふとあれども、これは恐く、多病の者才子と云ふの誤りならんと考へらる。梅華仙史が凡そ一生煩はぬ人は、心無下に強く情淺しと云ひたるは、最も味ひあり。人の躰の弱り果るときは、靈の生きかへる時なり、肉躰のなやみになやむときは、靈魂に巧妙なる醫者を望むの時なり。左れば、鳥の死んとするとき其聲の悲しき如く、人の將に死んとするとき其言ふこと最と善しといへり。故に人の病みたるときほどに、情を感ずるの深きことなく、情を求むるの切なることなく、情に移らんとの決心强きことなし。女性が、其德を顯さる〻の塲合は蓋し此時よりも宜しきとなし、其軟かなる手は、啻に肉躰の痙攣を愈すのみならず、併せて心裏無限の苦みを愈すべく、其深切なる言辭は啻に目前四邊の憂苦を拂ふのみならず、併せて、高大美妙の感覺を與ふべし、玆に

至て、なほ頑然巖の如きものは、神の子たる人間に於て、多く見ざる所なり。左れば、吾人は、其病を看するの深切なる、其瘢瘡を取扱ふの、たよやかなるを以ての故に、女姓は看病に適すとは申さず、其の一種特得の美質によりて、人類が多く天の使に似るに至らんとをのぞむ故なり。抑世に病あるは、天の惠の最も大なるものなり、人若し病なくして、にはかに死し、片瞬にして忽ち北邙一片の煙と化さば、人間の靈の果敢なさは果して如何ばかりぞや。左れは、吾人は固より病に陷るとを求むるに非ず、但若し病來るの日は、則ち喜んで之よ考ふるものなり、既に之を考ふるが故に、最も深く之を思はんとを要め、則ち女性の德を感ずると甚な切なりと云ふ。嗚呼天の霹靂狂雨男子にあらはるゝとせば、彼の、春花秋香は、女子に顯ずと云ふべし、人もし神の正義威德を知んと欲せば、須く剛毅質直の偉男子を見るべし、若し神の恩愛仁慈を知んと欲せば、彼の露の如く、花の如く、玉の如き、女性を見るに如かず。神よ、吾人はボルテーヤの徒に非ず、悉く爾の天地を贊美す。

○女學校の卒業生

此頃の書生の多いとは、實に驚くばかりで、東京府下にある少し名高い男の學校は、大抵七百人から千人位の書生が留學いたす、それ故、年々卒業する書生もまた莫大の事で、而してその卒業生が難澁して居るとは、また可憐然な程なり、英學校の卒業生は、教師の口がないといつて嘆息し、法律學校の卒業生は判事の口がないと言て嘆息し、專門學校の卒業生は官員、新聞屋、代言人の口がないと言て嘆息し、到る處に嘆息の聲を聞くは、飢饉年のうなり聲を聞くよりも多し。是は畢竟卒業生が其の身分を忘れ、法外に學者を氣取て、變通の道を知らぬ故である。凡そ書生の意氣地なきものほど詰らぬものはなく、本を讀だる生物識りより痛しきはなし。凡そ人世の仕事に、高下尊卑の相違なきことを知るものは、苟くも獨立獨行して、正直に立身出世の方便が得らるべしとならで、何でも搆はず大膽よ之をなすべし。スペンセルの哲學書を讀むで、本屋の丁稚となり、ミルの經濟書を讀むで、唐物屋の番頭となり、ダルヰンの進化論を丸呑にして、藥草園の庭作となる如きは、實に味ひあることならずや。

併し右の如き嘆息は、決して男の書生にのみ限らず、女學校の卒業生にも將に同じ風が流行せんとするは、實に悲しむべきとである。五六年の勉强で、小說歷史傳記御話しを一通り

心得たからと云て、それで必ずしも、立派な御方の妻君になりたいの、一躍して玉の輿に乘りたいの、女教師になりたいの、女權擴張の演說家になりたいのと、途方もなき謀叛心を起してはならぬ。凡そ人間の貴ひのは、錦を着て、勳章をつけて、伯爵某と呼ばれ、金殿玉樓に住ふのではなく、如何なるあばらやにすまい、身につゞれをきる、賤が身の上なりとも、心潔白に道德堅固ならば、則ち人間の最も貴きものであらふ。それ故女學校の卒業生は、最初から、大きなことを望まず、人に目立つことを目的とせず、只今は如何にあはれなりとも、只正直に義務を守て、後に大に立身出世することを、待たるべきである。併し啻に左樣に待たるゝは宜しひのみならず、左樣にせらるゝが、最も喜ばしいことであらふ。昔し或る學才の秀たる、佳人に對ひ、御前は時に飛鳥も落るあの陸軍大將の妻となるか、または內にお出でなさる、あの望みある書生の妻になるかと、問はれたるときに、「妾は既に立身したる人の侍女とならんよりも、寧ろ糟糠の妻となりましよう」と答へたと申します。今の女學生方も、何卒此高尚なる志を持ていたゞきたい、たとひ九尺二間の陋屋にても、一家を立派に整理して、清きホームを作り、良人を助け勵まして、國家の御役にたゝせ、其子を教育して天下の人物を育てあぐれば、女學生の學問は既に實用を盡したと云て宜しい。こゝに至て最早、女教員とならなかつた事を嘆息しない、女權擴張の雄辨家とならなかつた事を嘆息しない、伯爵夫人となつて鹿鳴館に腰を振る事の出來なかつたを嘆息しない、妾は此家の女王なり、此良人の皇后なり、此愛子の皇太后なりと云つて、安心氣樂、最と平和に喜び暮さるゝものならん。

故に如何に意氣地のなき男書生の多くあるに拘はらず、どうか女學校の卒業生には、一人としてそんな役に立ぬものゝないやうにとは、女學子が最も熱心に願ふ所である。

○一唱百歎

平田篤胤

是はしも人にやあると能く見ればあらぬ獸の人の皮きる

本居宣長

敷島のやまと心を人とはゞ朝日ににほふやまざくらばな

林子平

親もなし妻なし子なし板木なし金も無れど死たくもなし

上杉謙信

霜滿軍營秋氣淸。數行過鴈月三更。越山併得能州景。莫遮家鄉憶遠征。

小説

○哲女の巻（上）　月の舎しのぶ

第三章、末摘花。

西京高志社女學校、學年試驗今日を以て終る、恰かも是れ、書生一年の總勘定正さに相濟んで、損益の計算明らかに知らるゝの時なり、試驗に成功したるものは揚々として喜べり、失敗したるものは忸怩として悲しめり、然し彼も此も先づ勘定を濟まし、損得に拘はらず重荷を卸し、夏期の休業目前に横はつて前途樂しい哉。時は是れ七月下旬、氣候未だ左樣に熱からずして、天氣甚はだ晴朗あり、左なきだに喜ばしき書生達は、今日の日和にいよ〳〵浮立ち、夕方冷氣少しく吹き來る比ほひ、廣ろき校園に出でゝ心の儘に戯むるあり。幼きは鬼ごつこをして「アラ青山さんはひどいのよ私しばつかし追かけるんだもの」とすねるもあれば、手を牽いて連々一つの環を造り、先生を取圍んで笑わするもあり。稍や大きさは、花を摘みて一寸つと鼻に當てゝ「ちつとも香わないんだもの」と投付くるもあれば、「加藤さんはチカシヒのよ、直き誰かの事を言出してよ」とおだつるもあり。一百餘人は少なくとも三四十の組に分れて、それ〳〵勝手よおしやべりを爲され、それ〳〵勝手にお遊びを爲さる。中に於て先づ余が目に止まりたるは、庭内の長椅子よ並んだる六七人の高等生徒あり、年の頃は何れも十八九、お談しは英語交り、もしくは純然たる英語にして、頓と相分らざるとあり、然し先づ之を伺つて、其の大抵を反譯すれば、

甲。今日のヒストリー（歷史）の試驗には閉口しつちまつたワ、ホントニひどいチー、あんな題を出してサ、平常に教へも何にもしないで、而して試驗に出すッてあ、實に不公平だワ、幹事に詰問しようジアありませんか

乙。そら又お甲さんの慷慨が初まつたよ、幹事さんなどが何に知つてるものか

甲。ダッテ幹事に言つて置くと、點數に大關係があるからサ贊成なさいな、贊成を

丙。夫よりか私は、昨日のトランスレーション（譯文）に大不平があるワ、私しやあの邊は讀まいんだもの、病氣で休んだかラッテ、斷はりを言ても、夫はイケませんとか何とかッテ、髯を扭つてサ、惡らしいジアありませんか、もし其割に點を殖して呉れなきや、私しや死んジまうワ

甲。お死になさい〳〵、快もちよく成佛なさい、而して死ん

でも命ちがあるようにお死よなさいよ。
丙。チヤ、あなたワ。
甲。ア、痛い〳〵、およしよ・・・御免よ・・・・テバ御免よ
皆々。ヲホヽヽ、アハヽヽ、ハヽヽ、ホヽ
丁。ダツテ文章にも弱つたのよ、あんな時節柄のサブゼクト(文題)では、考へも何も出やしないワ、ちよいとお丙さんは、何とお書きなすつて
丙。分らないから子、ムチヤクチヤに慷慨な事を書いて遣つたノ、ダカラ入校可許の論者サ
甲。だれだつて左樣ダワ、私しも「若し之れを許すヿなくば、日本の大學は智識を廣むるの功を爲すものにあらず、反つて之を制するものなり」と書いたワ、
丁。そう、大層ひどいチー、今度の女學雜誌を御覽なすつテ
甲、丙、イヽエ未だ
戊。あヽ見ましたノ、大邊よく論じてありますとチー、巳さん今ま讀んで居らつシヤルノ
巳。ハア、此處の所ろが善いと子ー
人もし吾人に・・・・
甲。ちよいと〳〵巳さん何と云ふ題で、

巳。「女子、大學入校の志願を何如んかする」、と云ふの、お聞きなさいよ
人もし吾人に、然らば女子の本分は毫も男子の本分と異るヿなきやと問はゞ、吾人は斷乎として其否らざるを答ふべし。每度申す如く、手は足に向つて汝ちは執らざるが故に不可なりと言ふヿを得ず、足は手に向つて汝ち步まざるが故に不可ありと言ふヿを得ず、手足各其役を異にして而うして同じく是れ一身の肢躰なるが如く、男女亦た本來其の長ずる所を異にして、而して同じく是れ人類たるを失なわず、否な啻に同じく人類たるのみに非らず、斯の如くにして初めて共に人類たるの務を盡し得べし。然りと雖とも古來人爲の壓制を以て男女不自然に大ひに其質を異にしたる者なきにあらず、吾人は如此にして成りたる異質を執つて遠よ維持せんと欲するものよあらず。啻に之を維持せざるのみにあらず、此如き人爲の異質は悉く之を打破し、此に純然たる男子あるが如く、彼に純然たる女子あらんヿを望む。見よ、芥子種の微なるものと雖ども、其自然に隨ふものは森々として遂に鳥を棲はするの大木と爲るべし、如

何に人工を盡すと雖ども、萬里の長城は破れざる可らず、ベーベルの高塔は倒れざる可らず、世間豈に鬼あらんや、若あらば則ち理法なるのみ、理法や手を擧げて之に觸るれば、人爲不自然の結構は遂に賽の河原の小石とならん。然らば則ち如何ん、吾人は女性が子を産し、男子が子を産せざるを知る、之れ即永遠に至る迄て打消す可らざるの異質にして造化再び悔るにあらずんば敢て其の違はざるを知る、吾人が所云る男女本然の異質なるものは、即ち之のみ、及び之か上に立られたるものなるのみ、

戊。いつもの議論ではありますが、大層流暢に出來て居ますとチー、

丙。ダッテ何んだか曖昧じやありませんか、「之が上に立られたるもの」とか云ふナア、何んなものでせう

巳。夫れが此次に論じて在るんですよ、デスがチ其處は大邊よ面倒ですから……(あにく〳〵とずうつと讀下し乍ら)ソウ、此處が又面白いのよお聞なさい、

此故に、吾人は斷言すべし、男子の長所は進取的なり、女子の長所は保守的なり、男子は組立てゝ而して解剖するものなり、女子は想像して而して惣合するものなり、彼れは怒るものなり、此は泣くものなり、彼は走るものあり、此は留まるもの也、若し男子山の如くならば、女子は即ち谷の如きもの也、男子もし花の如くならば、女子は是れ蜜の如し、故に之れを一言するに、男子の本分は外に在り、外とは啻に家外に於てのみ之を言はざる也、屋内に於ても亦た所云る外あるべし、女子の本分は内に在り、内とは啻に家内に於てのみ之を云はざる也、屋外に於ても亦た所云る内あるべし。

甲。分らシナイワ、肝腎の其の入學の事は何うなんでせう

巳。お聞なさい、此處にこうあるんですよ、

✦ ✦ ✦ ✦

○さすがに双紙　第五篇(下)　美妙齋主人

滊車、下手に之を形容すれば敷居を行く百足、も一ッ下手にやれば車の珠數は車掌に四ッ五ッ停車場の名を數取よ呼ばせて程無く新橋に着きましたから花房の一行はその栗殼と知己だといふ人にわかれて芝愛宕下邊の堀の家へ歸りました。それから何や角や長くかゝらぬ旅ながら旅歸はやはり旅がへりで彼是と混雜し、まア一ッ身軀を休めやうと言ッた頃は夜もはや九時に近く、それでも一寸簡略な、惡く言へば錢のか

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ゝらぬ酒宴がはじまりますと、下物が少ないだけに時子の父、親も花房も目射す相手は酒ばかりで見る間に銚子を三四本打倒して仕舞ひました。が、不思儀は毎に似氣なく、花房の顏は酷く紅くもなりません、一オンスの洋紅に半オンスの藍を交ぜ、それを四オンス位の水に解いた程の色艶です。何だか紺屋が見世開でもはじめたやうな形容ですが、しかし實の處そンなもので是程に浮立たあい心の裡は吻のあをい人間や白人には分解りません、いづれその經驗のある黒人がはじめてこの秘密の錠を開きます。

花房は東京でもまだ下宿して居るのですから今夜は序にての堀の家へ泊ることゝなりました。無論可なり醉て居ます。けれど御得意の秀句が自由には出ません、一寸した挨拶も膠で固めた脚半でも穿いて出て來たやうです。注意ぶかい時子の眼からは續々と腦へ「不審しい」といふ警戒が、天氣豫報ではありませんが、傳はります。

暫くして父親は何か些し取調べることがあるとて次の間へ入ッて何だかもぢ〳〵して居ます。座敷には花房と時子とが差向ひになりました。

さしむかひろれを羨むのが妬顏の月、心で之を迎へれば樂氣よ笑ふと見える月、風に舞ふ木梢に輕やかな宿を取ッて、聲低く唱歌する葉を相手に澄まして居ます。その景が氣に入ッたのでしやう、さしむかひと爲ると同時に次第〳〵時子の顏は人造の燈光の方をば離れて自然の常燈の方へ向きます。その横顏醉眼ながら屹と見れば、肉豐に肌理こまかく、頰は光り過ぎずまた曇過ぎす、適加減に光亘ッて居る鹽梅、之に妬ましい薔薇の花、簪が戰慄つて蟠龍の睛を點ちます。あゝうるはしい……實に人間の花だあァ……わずかに批評が頭を擡げる、その內に折角の美しい處は向を更めて、更に又賠償の笑顏が這方に向ふ間も無く、乙女の本色たちまちに仰々しいおほゝゝ。

「おほゝゝ、」笑倒れて花房を偷んで見ます。

「どう……何が可笑しいのです?」問惚ける身も己を屈してまだ意味の無い笑顏を廉賣に出掛けました。

「何がッて、あなた、大層今夜は御大人しくッて。

「なるほど、今度は本物の笑顏が出て來ました、「昨日までは灣泊でよく御灸をすゑられましたッけねエ」。

「おほ……、左樣で厶いましたねエ」、息を呑込で顏を正し、

「ちよいと、ちよいと花房さん」。

「へエ」。
「あなた、先刻の方御存じ、あの汽車の中に居た、あたし達と話をして居た」
「いゝえ初對面でしたもの」。
「あの人は、ね、」 さも親しさうに身を屈めて聲を潜め、
「あの人はあれで探偵掛ですの」。
「に、探偵掛？」
不思議です、花房の顔は俄に變はりました。　透さずそれに目を注めて時子は今までの不審を晴らすのは實に今だと考へて些ばかり膝を進めました。
「どうも御容顔が御惡うムいますよ。　何も貴君から御親しく今まで御交際申して居りますのに御隱しなさるにも及びませんよ」。
けれど果斷に乏しいのが花房の瑕ですから打明ける勇氣はありません。
「そンな事そりやァ貴娘邪推ですよ。　何も常には變りません」。
「そンなら宜しうムいますがね」、　あきらめて、しつこく爲ず、「御心配申してつまらない事を申したのですよ。　去かし、花房さん、　御話は違ひますが、みづから重んづるといふ事は妾は人間が世を渡るための楫だらうと思ひますわ」。
「さうです。　が、兎角それが出來ませんでねェ」。
「ですが、みづから重んずると思ふと六箇敷やうですけれどみづから貶さないやうに爲ればそれで論はムいませんのでしやうか？」
「なるほど例の御新説ですね」。
「御褒めなさるばッかりですから妾はもゥ……けれど婦人ばかりか此自重といふ事は男子でも守ッて決して利益の無いことではムいますまい」。
「左樣ですとも……どうかよく守りたい物です」。
「本當に守りよい物ですねェ。　しかし爲て惡くは無くて而して行ひにくい物は却て爲る樂みが有るもンですね」。
洵にその沈着な勇氣の程、この一言で時子のこゝろばえは見えて居ます。　前後の關係も無い處へこのやうに自重の話を持出した時子の心はどうなのでしやう。　つまり花房を諷するのです。　たしかに花房が栗殻と爭でも爲たことゝ推察して仕舞ひましたのでそれを戒めるために斯う言出したのです。　薄々は花房も時子が此方を諷するといふ事に心注きましたが、

志かし今更是々だと仔細を語るのも何やら變だと思ッて兎角曖昧な挨拶ばかり爲て居ます。

旅の疲勞もありますから其内に花房も床に入りましたが、時子に諷された言葉の端々は夢を呼覺ます鐘のやうで睡ることも出來ません。時子の方もまた左樣です。色々お考が睡魔を防いで居るのみです。

「學問はあり、財産はあり、交際も下手で無くて、そして輕躁で無くて、隨分取るところの多い花房さんだけれども、たゞ今夜のやうに……既にわかッて居る物を躊躇して言はないのが……場合に因ッては宜いかも知れないが……まずあの人の瑕だなア。阿父さんもあの人をば大層褒めて御出でなさッて、花房さんも又妾をば行々女房にでも爲たいといふ御樣子だけれど……あの些し因循……と言ッては變だが……すこし身を屈して重んじないところが直らないければ此後社會へ立ッて幸福を得やうとしても……妾だとてあの人を夫とするのは有難いから……あゝ左樣だ、是からは、あの人が妾を信じて下さるのを幸、みづから重んずると言ふところを充分に見せつけて……あゝ本當にそれがいゝ。

妾も交際の方法をばあの人と交際して大層覺えたものを、あの人だとて妾に一ッの信用をさへ持ッて居れば」・・・・あゝ花房も幸福です。男子の幸福は賢い婦人を友とする事です。

佳傳

○米國獨立革命の婦人（上）

米國獨立の戰爭に、ジョーヂ、ワシントンあることは誰も知るべく、また其幕下に馳せ集りたる、正忠の義勇兵多かりしとは、世人の遍く知る所なり。然るに、其戰爭つゐに功を奏し、天下第一の自由國を打立てたる、其勳功を悉く是等の男子に歸するは、甚しき誤りなり。

蓋しワシントンの母、幷びに其義勇兵の母達は、夙に英國政府の暴逆を怒り、其膝下に子供等を撫で育つるの時、慷慨して自由の歌をうたひ、まづ是が心中に、自由を愛するの精神を吹込みたり。如之、曾て、佛蘭西の移住民及び印度の土人等と戰ひたるときには、是等の婦人眞先に進みて、手づから銃器を弄し、苦戰して其土地を防ぎたることあり。左れば獨立革命に先き立つ頃をひは、米民婦女子の氣風、悉く悲壯激烈となり、彼の男子等の首に掛けられたる、磨臼とならざるのみかは、是を勵まし之を追立て、勇ましく自由の戰に出陣せしめたり。今を距る五十年前、當時の烈婦人多かるなかより、まづ其一百六十人を擧げ、細かに之が傳記を誌し、米國獨立のなれるは、多く婦人の手によれることを示したるものなり。左に其一二例を擧げ、讀者諸君が之を望遠鏡として、遙に數多き當時の烈婦人を臨み見らるゝの便となすべし。

「代議人を出さしめずして、税を課するは、暴君の行ひなり」、との確言を殘したる、ゼームスオチスの姉妹にして、ジョセフワルレンの妻たる、メルシーワルレン夫人は、其兄弟に劣らざるの熱心を有し、なほ之に優りたる、政治上の才智を有して、初代の義士を激導したる、其功實に驚くべし。まづ「自由、生命、及び幸福を求むるの權は、總ての人類に均しく屬する所なり」との、爭ふ可らざる眞理を主張し、當今の時弊を救ふには、斷然英國政府の管轄より脱するに在ることを、衆にさきだちて、初めて發言したるは則ち夫人なり。故に彼のサミユエルアダムス及びジョンアダムスの如きは、一に夫人の説に感激して遂に率先獨立の宣告に盡力したるものなり。而して右兩アダムスの盡力は、當時なほ世人の嘲を招きたるほどなるに、是にさき立つて、更にはやく其説を主張したる、夫

人の卓見は實に驚くべきとなり。かくて夫人は、まづ右兩アダムスの尊敬する所となり、後にはゼハソン、ゲルリー、ノックス、リー、ゲーテス等の、相談相手となり、また最もワシントン夫婦に親しかりしと云へば、夫人の意見の、前後に行れたるは必すや少かるまじ。左れば、ロチエフホーコールドが、其米國旅行記の書中に夫人を評して、凡そ女子にして、其智力を以て斯の如き勢力を得、また其勢力を斯の如く久しく保ちたるは、古今最も珍しきとなりと云ひたるは、蓋し至當の言葉なるべし。

寄書

○不レ忍レ聞、不レ忍レ見、

忍月居士

近頃本郷下谷邊の町々を徘徊する一種の飴賣人あり、頭に灯提を飾りたる幽靈様の者を戴き、手に太皷を鳴らし、出所の四辻彼所の横町に於て、俗歌俗舞を演する者あり、（否な寧ろ身躰を不規則に跳り廻はして、不規則の唄をうなり出すと言ふ方至當ならん）彼れの過ぐる所、彼の停まる所、五六乃至十一二歳の童子女兒、群をなし列をなして、之に從ひ之を見聞す、予某日某街を過ぎ、偶此有様を目擊し、予非常の不快を感じたり、非常の心痛を來したり、何故に不快を感ぜしぞ。曰く彼れの歌ふもの舞ふもの非常に野鄙猥褻にして、紳士貴女たるものハ勿論、苟も普通の廉耻心、普通の道德心を備ふる者は、之を聞くに忍びざる也見るに忍びざるなり、予も自說を固めんが爲めに其二三の歌を書載せんと欲すれども、其歌たる男女の肉躰に亘り、お三權助の野合に亘り、且那お妾の閨中に亘り、余り猥褻の甚しきが故に筆汚れ、水濁り之を書するに忍びざるなり、否な書するに忍びざるに非ず、執筆の際自ら咎め、自ら省み、讀者の感情を穢惡になさんとを恐れて、詳言する能はざるなり、予輩不肖と雖も平素高潔優美の言行を慕ふ者なり、淫風猥俗を帝ふ者なり、然るに彼の淫冶道を取り德を汚すの艷歌、痴舞を、白日街道に演するを見る、豈に不快ならざらんと欲するも得んや、

何故に心痛を來したるぞ。曰く彼れ等雜菓の商人が得意とする者ハ、心、水の如く清く、性、水晶の如く玲瓏なる、無心の童女なり、無心の童女は師父に教論さるゝよりも、寧ろ日常見聞する、國外物の善惡頁否に、風化さるゝと容易にして甚しきものなり、況んや童女の常として太皷のドン〳〵を嬉しがり往來の雜菓を好みたがるに於てをや、彼の恐る可き、忌む可き、厭ふ可き、嘔吐す可き、歌舞を喜んで聞き喜んで見、知らず識らず淸水の心を濁し、水晶の性を瑕づけ、而して自ら悟る能はず、嗚呼憐む可し無心の童女、嗚呼痛む可し無心の童女、汝等が性は之を導く者の如何に由ッて、雪ともなり墨ともなり、方ともなり、圓ともなり、孟子ともなり、鼠小僧ともなり、優美ともなり、野鄙ともなり、莫連ともなり謹嚴ともなるなり、然るに今汝等が好んで見聞する所の、彼の歌舞は總て汝等を不潔にする惡魔なり、汝等の叔父さん汝等の慈母さんは之に近よるとを禁止せざる乎、予は既に汝等が或る夕、鬼子ッこの戲をなせる時、彼の不潔なる歌を、遠慮もなく平氣に繰り返し〳〵唱歌せしを認めたり豈に心痛せざらんと欲するも得んや、

斯の如き歌舞は大に國家の風俗を敗る者なり大に童女の敎育を害する者なり吾が警察官たる者、大至急に彼の行商人を論して以來を謹ましめられんと切望に堪はざるなり、其方法の如きハ只是れ〳〵の種類の歌舞に非れば演する能はず、肉躰に亘り陰部に亘るの歌は歌ふ可からずと嚴禁せば可なり、方今警官の眼光炬の如く能く演說を中止し集會を點撿し其上有り難きとには、某々何の處にて某々と酒を傾けて如何なる密談をなせしと云ふと迄注意探索せらるゝの世の中なるに獨り怪む斯の如き風化を害する者を等閑に附せらるゝとを、斯の如きとハ些事と思推せらるゝ乎、予は決ッして些事と思はざる也。

○觀花有感

井上直子

曉の花みんとて四月十日あまり二日上野の山にまかりぬ風は柳にのみ音つれて四望の景色いとのどやかなり不忍の池は半は霞にかくれて常よりも廣く見渡されさかりの花はふりつもる雪かとうたかはるゝ計なり未たはやければにや木の間に囀つる鳥の外に友もなく獨り花の下をこゝかしこ行こふほとに朝日もやう〳〵高く成行まゝいとゝたぐひなく匂へる花の艶なるありさまはよしの山のありさまもかくやと思ふばかりなりされどこれハ只ふみの上にてみしのみなれどめでたきものは文章なりけり今や文化の日に開け學びの道の月に進む時にあたりて明治女學校の中に二三の姉たち文學會を設け賜へりうは妹も殊に好む所にしてうの席末につらなるとを得たるはよろこびにたへざる事にこそ希はくは永く敎へみちびき賜はむとを願ふとゝもに望み思ふは凡そ一つの企あるや必らず之を爲しとけんの決心

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

なかるべからず今この會もかく開きではその成就するまでは多少の困難ありとも失望せずして各々精を勵まして勉め學ひ霜害を凌ぎてかく美くしく咲出たる花の如くこの文學會もついにまさかりの春に逢せしめむとてなん。

新報

（此欄内自由に轉載を許す）

○ラマバイ女史橫濱着港の評判
ラマバイ女史既に到着せり其の顏色は日本人に少し色黑きにて丈けへ左程に高からずとまでに朝野新聞は深切に報道せられたり然かるに東京婦人矯風會より元眞潮田の二女子試の爲め出向ひとして同港へ赴かれたるにグランド、ホテルにもシテー、オフ、ペンキン號にも遂に其の影を認めざりしのみかホテルの主人も船の船長も遂に女史の名を知らずと云へり然るところ朝野新聞は又々報道してラマバイ女史既に印度に立ち歸つたりと云へり去るにても不審儀なるは元來同女史が日本に立寄らるゝは專ら婦人矯風會の招待に基すと承るに左樣一言の申し遣しもなく忽焉として天竺に飛び行かるゝは滅相の事なり吾人の推察に由れば大抵は明後月曜日の入船にて渡來せらる可く左なくとも確たる音信を得べしと信ぜらるゝに付き其の上にて更に讀者を安心せしめ參るべし。

○英船マルワ號日本婦人强姦事件
去る三十一日マルワ號橫濱入港につき磯田喜代松夫婦及び兄治田治平三名にて去る三日彼阿會社に到り支配人リケット氏に面會の上問答したる所を聞くに第一彼の婦人は當時未た全く辱しめを受くるに至らず只だ容しがたき失禮の振舞を蒙りたる趣きの事第二右磯田夫婦は此後必ずしも再び訴へを起すの所存未た確定せざる趣きの事。吾人之を聞て一は喜び一は甚だ怪しむ若し夫れ評判の如く金錢其他の不都合によりて曲げて忍ぶ可からざるの恥辱を忍ぶとせば吾人は決して之を聞捨てにすることを得ず三千八百萬の同胞といへども是が爲に義捐金を募集し是が爲に及ぶべきの盡力をなすは固より大に喜ぶ處ならん吾人また實に然り女學雜誌社にして若し之に一臂の力を貸す事を得ば社員の幸福何物か之に及ばん。

○英國の女教員
文第七號は、千八百八十七年度英國教育費及び精統計報告摘要と題し、有益なる新報を載せたり。其中に云く、

教員の數	英倫及威勒士	蘇格蘭
假証書を所持する男教員	三四	九
同　女教員	二四一	一七
本証書を所持する男教員（授業法を修めざる者）	五、四三七	八七一
同　女教員（同右）	一四、二三六	一、一四四
同男教員（授業法を修めたる者）	一一、九一六	二、七二四
同女教員（同右）	一一、七六四	二、二六三
男教員合計	一七、三八七	三、六〇一
女教員合計	二六、二四一	三、四二五
（女教員の多少）	（多）八、八五四	（少）一七六
助教員（男）	五、二三一	一八八
同　（女）	一二、八三〇	一、〇〇一
授業生（男）	七、〇九二	九二三
同　（女）	一九、三三一	二、七二八
男合計	一二、三二三	一、一一一
女合計	三二、一六一	三、七二九
男教員授業生總計		三四、四二二
女……總計		六五、五五六
女の方多き事		三一、一三四

（右統計表中特に本誌の爲に加減したるものあり）
米國に於て女教員の多きは天下に著るしき事なり、而して英國に於ても亦た如此し。

○東京高等女學校教諭　文科大學教授兼第一高等中學校教諭神田乃武高等師範學校教諭坪井玄道兩氏は去月三十一日東京高等女學校教諭を兼任せられたり。

○東京音樂學校　上野公園なる同學校にては去る三日より三日間入學試驗を執行せられたる由。

○大日本婦人衛生會　同會にては去る一日午後一時より一ッ橋外帝國大學講義室に於て第二總會を開き役員撰擧を執行せしに會長には加藤鈴子副會長には南部陽子幹事には濱尾作子村岡久野子細川靜子荻野吟子大澤作子等の諸氏を當撰し右了て櫻井郁次郎氏（婦人衛生の一斑）長井長義氏（臺所之衛生）の演說ありて一同散會せしは五時過ぎなりしと而して本日來會の貴婦人は無慮二百五十余名なりしと云ふ。

外報

（此欄内自由に轉載を許す）

○米國大統領夫人　現大統領クレブランド氏の夫人が此頃ろ禁酒事業に賛成を表されたるを謝するとて紐育州モンローにある婦人禁酒會支部の部長は同夫人に謝意を表するの印として立派なる顯微鏡一箇及び附屬品を呈したりと云ふ。

○米國の鍛冶屋　英國にて鍛冶屋の槌を揮ふとを業とする女三百四十七人あり釘を造るとを職とする女九千百三十八人ありとなり。

○女子避暑會　去年より米國に立られたる女子避暑會（サムマー、レスト、ソサイエテー）と云ふは元と二三人の女子が發起して今も其の取扱ふ所なるが今年もニウゼルセーのパスカツクに家をしつらへ一週間三弗半の入費にて快ちよき避暑室を供ふると云へり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

社告

賣捌書店の中にて本社の都合に依り雜誌配達差止め候向きも有之候間斯る場合に於ては購讀せらるゝ諸君は直ちに本社へ御注文被下候樣奉願上候

女學雜誌社

●女生徒募集廣告

本校各學期生徒入學ヲ許ス教授ハ熟練ナル內外教師之レヲ擔當ス且便利ナル寄宿舍ヲ設ク寄宿ヲ望ム御方ハ宿所姓名ヲ記シ郵券二錢ヲ送附アラバ規則書ヲ呈スベシ

明治二十一年九月

麻布區本村町二百十七番地

私立普連土女學校

私立女子文藝學舍生徒募集

○本舍學習ノ科目ハ和洋服裁縫編物挿花點茶和歌英學數學トス○學習科目ノ外修身衛生及家事經濟等ノ講莚ヲ開ク○各科目學習ノ爲メ專門ノ師ヲ聘シテ其指授ヲ依賴ス○九月十一日開校ニ付入學ヲ欲スル姉妹ハ九月五日迄ニ申込マルベシ○規則書入用ノ方ハ郵券二錢御送附アレ○當分ノ內束脩ヲ要セズ

麹町區中六番町六番地白蓮會ニ於テ

私立女子文藝學舍

日本婦女之地位

伴直之助君述

右ハ當今有志の御婦人方必讀の書故金八錢郵券代用不苦且全國無遞送料ニテ發賣ス○大賣捌通二丁目小林○日吉町警醒社同女學雜誌社

交詢案内

（催促する勿れ 郵券十錢送れ [illegible]に出來れ）

●雇ひたき方（甲）

十七 教師 府下某女學校にて東京師範學校女子部卒業生を雇ひたき處あり授業時間三時間位にて校内に止宿してもよろしとのよし

●雇はれたき方（乙）

一八 召使 年齢十四五才のものにて學資に乏しく依て小間使となり餘暇に修學いたさせくれる人あれば無給にて雇れたし雇主可成的基督信者を望む

一九 召使 裁縫の教授を専にし其他女子學校等監督兼留守居樣の者に雇れたし

二〇 裁縫 年齢十四五才にて華族樣か或官員方の御方之内へ小間使に雇はれたし但し餘暇に讀書授けくだされば給料は不申受

二一 召使 年齢十四才の[illegible]にして一二時間通學を許さるゝところに小間使に雇はれたきものあり

二二 教師 年齢二十[illegible]し年東京府女子師範學校卒業生にして或る貴家令孃の出教授を望む者あり

●喜びのめぐみ

九 召使乙第十五號は築地の或女學校に雇はれたり

出張教授を望む

壯年にして身元確實品行方正生來高等の教育を受け最も獨逸學に通曉する者あり今般當人の餘暇を以て毎日官員華族若くは其他の令息令孃等の御內に獨逸語出張教授仕度候間御望の御方は何卒女學雜誌社まで御通知被下度候尤も中間は午後の內一時間乃至二時間にて報給は八圓乃至十二圓とす又二人以上御組合にて一同に教授仕りても宜敷候

在米の米人學士

にして特に日本の教育に盡力せんと欲するものあり月俸百圓及び家族住居の家を用意せらるゝものあらば條約の上速に渡來あらんとす而して令夫人は音樂に長ず又無報酬にて其人と共に其校に盡力あるべし右學士の學力及び篤行に關しては女學雜誌社員が保證する所なれば日本教育の爲に之を紹介するもの也志あらん方は來談を乞ふ

巖本善治

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

關輪正路君纂著○木村熊二、田口卯吉兩君序

女子必携 **今世ひめ鑑** 全一冊 定價六十錢 郵稅十四錢

右出版いたし候是非は自から公評あらん凡そ當世婦女子の心得べき承知すべき質問すべき箇條は大抵悉とく記載し有之候蓋し昔の「ひめ鑑」の重寶なりしとを御存知の方々は此開化したる當世のひめ鑑も亦同樣に助けあるとを想像し玉ふべし

八木兼辰先生書

東洋畫手本

蘭竹 菊梅 二帖 定價金六拾錢

此帖は即ち畫學の階梯にして四君子より始め花卉鳥獸蟲魚人物山水に至るまでを逐次に模寫し疎なるも浮薄に流れず密なるも刻滯に陷らず加之折枝は陰陽向背を詳かにし又三方を明らかにし此法によつて花を插めば自然法に適ひ趣をなす山水は吾國有名の眞景を寫し獨り用筆用墨のみならず目未だ見ず足未だ踐ざる奇勝名景筆下に集輯す人物は故實に徵し古圖に基き畫を學ふと共に智識を廣くし吾國他の美術上にても亦鴻益あらんとを期す近刊四君子の部に就いて購覽あれ。

婦人矯風會書記佐々城豐女譯

婦人言論の自由

一冊十錢 郵稅四錢 （新版）

德富猪一郎君評曰く婦人の言論は人を屈服するに非ずして人を勸誘するに在り而して其勸誘するや或は涙となり或は笑と爲る然れ共其一泣一笑時に或は千言萬語滔々たる議論に優れると無きにあらず吾人は佐々城姉が此譯の世に出でたるを喜び世の姉妹に此書を一讀せられんとを推薦すと云々

巖本善治君評曰く然れども余が此書に於て特に尤も歎賞して措く能はざる者は本書の著作の由來記にある也記に云く月明の夜妾良人と共に出で、逍遙す偶ま會堂に入て共に座に就く時牧師會治の集會に云々此時妾良人の而を親ふに良人勃然として立ち反論して之を不可とす妾實に晴天霹靂の思ひありき然れ共直ちに携ふる所の速記用紙筆を取出して則ち良人の論を筆記して成る所のもの即ち此書なりと云々。

諸姉妹乞ふ一讀を賜へ。

東京日吉町八番地 **女學雜誌社**

發兌

九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一册。五錢 郵稅。一錢 （但府內無郵稅）
十册。四十八錢郵稅。十錢 （同前）

半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を揭ぐる每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行 一回 前金拾錢 （廿七字詰）
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町暇々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新乾町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文春堂○横濱住吉町角田米貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入淨集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺一大町木村文助○尾張國名古屋本町○石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新町々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目槃園堂○熊本文明堂

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

明治二十一年九月六日印刷
明治二十一年九月八日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐